

産学連携コーオプ教育の実践

経営学部経営学科（平成 29 年 4 月開設）

山口 隆久、他経営学部全教員

Keyword: イノベーション、ラボ、企業連携

1. マーケティングやデータサイエンスを武器に、企業とコラボレーションし課題解決に挑む。

1年次の「基礎ゼミナール」、2年次の「プロジェクト研究」で刺激を受けた経営学部の学生は、新しい商品やサービスの開発、および地域貢献策等を企画立案し実行する「課題解決型のラボ（実験の場）」で、その知識や技能の集大成を行います。それが、3年次に設けられた「イノベーション・ラボ」です。この「イノベーション・ラボ」では、そこでの活動を通じて、リアルなビジネスを体験します。ラボ活動では、失敗が1つの学びの場。それを次にどう繋げられるかを考え、繰り返しチャレンジし、学んだ理論と実践を結びつけ、実践知を積み上げていきます。

■産学連携コーオプ教育 課題解決型ラボの特徴

特徴①：学生が主役のプログラム

学生は自身の興味・関心にしがってプロジェクトを期の始めに選択します。1つのプロジェクトあたり、学生10名～15名程度を定員とし、提携先のパートナー企業からリーダーが派遣され、そこに本学の担当専任教員が加わり、リーダーと共同で指導を行い、成績評価まで行います。全てのラボにはルールはありません。テーマごとに集まったチームのメンバーで話し合い、意思決定して取り組みます。目標設定、進行計画の計画立案、役割分担、研究方法、プレゼンなど、学生自身の自発的な行動と判断で、課題解決を行うことを目的としています。

特徴②：大手企業・地元企業、自治体との本気のコラボレーション

「イノベーション・ラボ」のテーマは、日本を代表する企業および県内を代表する企業や自治体と共に進めます。企業や自治体が抱える現実の問題や課題に挑み、学生が本気で現代のイノベーションである経済的付加価値を創造することを狙いとしています。商品やサービスを提供する側の視点を学ぶと同時に、働くということを考え、将来の職業選択にも活かします。

■課題解決型ラボの目的



1. 社会で求められている力を体験で理解する（社会経験・基本スキルの習得）
2. 問題解決体験による自己効力感の醸成（成果を出すための努力、達成感）
3. 進路選択や就職への意欲喚起（進路選択のより高い次元への目標設定）

■イノベーション・ラボ紹介

学生のアイデアを商品開発に活用したい・ラボ(仮)

パートナー：政府系金融機関

学生のアイデアを活用した商品開発に取り組む県内中小企業・団体を募集します。そこで、経営学科と政府系金融機関が連携して、選考された企業等の若い年齢層の視点や柔軟な発想を取り入れた商品開発・サービス開発に取り組みます。

学生が担当教員の指導や企業からのアドバイスを受けながら、マーケティングやデザイン等のソフト面も含めた総合的な商品開発支援を行い、実践的な商品企画を行います。商品企画やデザイン試作にかかる費用は不要で、商品試作等の経費は本学、およびパートナーが負担します。



連絡先 Tel : 086-256-9752 e-mail : t-yama@soci.ous.ac.jp